



「旅をしている君たちへ」

日向商工会議所 会頭 三輪 純司

不寛容な世の中になってきているようだ。論外なことは別としてちょっとした言い間違いや、過去のミスまで寄ってたかって袋叩きにする容赦のなさだ。人々に余裕がなくなっているのだろう。

だが自分の過去を振り返って、一点の曇りもない人がいるのだろうか。私などは一言も発する資格がない。

先日、読んだ本からの抜粋だが「他人に全く迷惑をかけずに生きていくことは不可能だ。そのように生きようと自分を厳しく律すると他人に迷惑をかける人に対しての視線は厳しいものになる。自分は我慢をしているのに、この人はなんだ!」と。

子供は人に迷惑をかけながら成長するものではないだろうか。現在、小・中学校で不登校が約30万人(前年比22%増)。これまでとは根本的に違う物差しを求められているような気がする。残念ながら私はその答えを持っていない。

～遊びをせんとや生れけむ～生れてきた喜びを知って欲しい。迷いながらも自分軸をみつける旅をしている君たちの、ともし火になりたい。



「ぶれずに進む」

日向市教育委員会 学校教育課 三樹 和幸



なじみの言葉ですが、「十年一昔」を実感しています。今や、本市にキャリア教育支援センターがあることは当たり前です。しかし、2013年8月の設立時は画期的な出来事でした。当時も、若者の離職率の高止まり、地方の人材不足、学ぶことの意味を見いだせない学生の存在など、解決できない問題を抱えていました。しかも、これらの問題は、産業界や教育界が個別で解決できるものでありませんでした。ですから、教育委員会ではなく商工会議所内にセンターを設置し、市民総ぐるみで子ども達の未来作りに関わる仕組みを作ったのは意義深いものでした。「日向の大人はみな、子ども達の先生」を合い言葉に、大人が次々に学校を訪れ、働く喜びや苦勞を語り、児童生徒に今をどう生きるべきかを考えさせた10年でした。中学校の社会体験学習では、多くの事業所が快く中学生を迎え入れ、綿密なプログラムのもと学校では見えない「よのなか」を見せてくださった10年でした。

教育の成果はすぐには現れません。しかし、ぶれずにこの取組を続け、郷土に誇りを持って生き抜く力を育てる日向市のキャリア教育を充実させたいと思っています。

「マシンガントーク」

日向商工会議所 事務局長 野口 洋

「マシンガントーク」という話し方があります。早口で聞きにくく、聞き手が受け取る情報量が多すぎるため集中力を欠いてしまいます。講話の話は情報というより、考えてもらうネタを提供するわけです。

聴いて「考える」ということは、話し手の言葉を理解する時間が必要です。子どもたちに話をするときには「しっかりと話を聞いて考えてもらう」場面です。

先生の話聞きながら考え、理解しなければならぬのに、どんどん話が進んでは「分からない、もういいや」と聞く気が失せてしまいます。

話し手はこれから話すことを理解した上で話しているので、話が早くなっても気付かない傾向があります。しかし、聞き手はそうではありません。

時には、自分で意図的に「間」をつくって、5秒ほど黙ってみるとイイです。「あれ…」と集中力が増すこともあります。逆に言えることは単調な話し方はダメとすることです。途中で、質問をして挙手を求めたり、考えさせ意見を求めたりすることも効果的です。

キャリア教育とは子どもたちに近い将来や遠い将来のことを意識させながら、教え、導いていく教育だと思います。普段の話し方から意識を持つことは大事なことです。



坪谷小学校

5～6年生「よのなか教室」の実施



坪谷小学校の5～6年生7名は去る11月2日（木）有限会社天領うどん代表取締役社長の田崎澄さんにおいでいただき「よのなか教室」を行いました。

田崎先生からは、ご自身の変遷、就業のきっかけ、仕事を通しての勤労感などを分かりやすくお話しいただき、その熱い思いが生徒たちの心に響く学習になったようです。

お話の後、質疑応答も行われ生徒全員から質問があり、田崎先生も丁寧に答えをいただきました。また、後日行われる「牧水ヶ丘祭り」でのもち米販売のシールの作成指導もしていただきありがとうございました。



後日行われた「牧水ヶ丘祭り」でのもち米販売の様子です。

「14歳のよのなか挑戦」協力事業所の会 反省会

中学2年生の社会体験学習「14歳のよのなか挑戦」に関わる協力事業所の会の方々、並びに大王谷学園、東郷学園、日向中学校の担当教職員等の参加により、令和5年度の反省会を以下のとおり開催しました。

日時 令和5年11月14日(火) 14時～16時

場所 商工会議所1階 多目的ホール



【大王谷学園】



【東郷学園】



【日向中学校】

高木会長の開会あいさつの後、取り組んだそれぞれの学校から良かった点、悪かった点等も含め実施結果報告が行われました。

その後、生徒を受け入れていただいた協力事業所の方々をお願いをした実施後のアンケートのまとめを支援センター長福島より報告させていただきました。主な項目をピックアップすると

1. 「受入日数の3日間または4日間はいかがだったでしょうか」

- 【回答】
- ・ちょうど良い 72%
 - ・もう少し長くても良い 7%
 - ・もう少し短い方が良い 21%

2. 「生徒の取り組む姿勢は意欲的だったでしょうか」

- 【回答】
- ・意欲的だった 90%
 - ・まあまあだった 10%

3. 「3日間または4日間で生徒に変化が見られたでしょうか」

- 【回答】
- ・大きな変化が見られた 38%
 - ・少し変化が見られた 62%

4. 生徒に「考えさせる」テーマを与えていただけましたでしょうか

- 【回答】
- ・特に与えていない 31%
 - ・生徒が自分で考えていた 17%
 - ・テーマを与えて考えさせた 21%

アンケート或いは意見交換の中で色々な意見や要望が出されましたが、結果、①体験学習を単なる受動的体験をするだけの学習ではなく、自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした課題解決型の教育として取り組んでみてはという意見 ②「私たち企業は地域の資源です。遠慮なく活用していただきたいです。喜んで協力いたします。」というありがたい意見もありました。

協力事業所の皆様方には今後ともご協力よろしく願いいたします。

日知屋東小学校 「よのなか教室」開催

日知屋東小学校では6年生94名に対して講師の先生4名をお願いして「よのなか教室・働くということ」を開催しました。講師の先生方は30分の講話を2コマ行うことで、生徒は2人のおはなしが聞けるという設定で行いました。

開催日時

令和6年1月12日(金) 2～3校時(9:20～11:00)

講師のご紹介

- 医療関係(薬剤師)
協和病院 宮原 伸 せんせい
- 保育士関係
認定こども園「伊勢ヶ浜保育園」園長 青木 雅矢 せんせい
- 情報関係
ケーブルメディアwaiwai 米良 亘平 せんせい
- 飲食関係(店舗経営)
(有)バッキーロ 代表 寺尾 秀貴 せんせい

活動の目的

○社会で働いている人の話を聞くことで「働く」ことについて考え、自分の将来の夢や目標を持ち、前向きに希望をもって進んでいくことができるようにする。

○自分の将来の夢や目標に向けて、今、自分が頑張るべきことを考え、実践へ向けての意欲を持つことができるようにする。

以下、講話の様子を掲載します。



【宮原 伸 せんせい】



【米良 亘平 せんせい】



【青木 雅矢 せんせい】



【寺尾 秀貴 せんせい】

あいさつや返事・言葉遣い、時間を守ること、決まりを守ることなど、社会に出てからの生活の中でも重要であることに気づき、自分の生活を見直し、今のうちから改善したりして欲しいという気持ちを込めてお話をされていました。感謝です。

